

再試験の記

池 宮 正 行

『先生は試験でよく落とすそうですね。今度は何人位落とすのですか。』

『キミ、落とすとは心外だよ。ボクは誰も落とすことはないよ。キミ達が、答を書かないで自分で落ちているんだよ』

こんな会話が試験シーズンによくかわされる。110人受験して60人再試験を受けたこともあった。再試験受験者の代表が来て、再試験受験料を団体割引や学割をしてほしいと申し込んで来たこともある。私の科目で100人以上再試験を受けて、学校当局が数万円儲けた頃、私は沖縄旅行をした。学生は『先生、再試験料の収入で沖縄旅行したそうですね』とあらぬ噂をたてられた。私は今まで多数の学生を再試、再履習、卒業延期させたが、私は学校当局から1円のお礼も貰ってないことを学生諸姉は知ってほしい。私の教師としての信念から、学生に勉強を強制しているのである。以下再試験を受けた学生達が、答案の余白に書いてあったことを原文のままうつしてみよう。すでに卒業した方々であるから本人からの抗議もないことと思う。

『この2年間どうも有難うございました。と云うてもまだ結果がどうなるかわかりませんが、留年だけはどうぞおゆるし願います。食品学再履習と言われた時はほんとに情なくみじめでした。でも今考えるといい思い出です。いろいろ考えることも出来ました。これも人生のしれんの中の一つだと思いました。寮では2回生としていばっているのに1回生と一しょに講ぎをうけるのはとても恥かしくみじめでした。今そのしれんをこえた時のうれしさを知りました。このうれしさは経けんしてないとわからない

と見えます。この短大での思い出と云ったら一番先に思い出す、にがくそして甘い思い出として先生のことでしょう。……でも後はいにはこんな思いをさせたくありません。』彼女は無事卒業して四国で就職していて、近く結婚するとの便りがありました。

『……再試験を受けながらいつも考えることは、顔ぶれがいつもいっしょだということです、学生の中には授業にも出ていないのに試験ではちゃんと落さない点を取る人もいます。すごくうらやましいと同時にチョッピリしゃく……。

そして皆どんな方法で勉強しておぼえているのだろうかと思います。でも再試を受けるたびに300円という大金を払うけれど、2度も勉強し、ねん入りに勉強するから再試を受けなかった人よりはおぼえた量は多いのだと考えるようにしています。

2年間という短かいものではあるが家政科に学んで先生にきびしく教えられたことは大変よかったと思っています』

『2年間はあっていうまに過ぎてしまいました。大学でのテストというほとんどノート持込みや問題を教えられているものが多い中で先生のだけは割引きもなくいつもなやまされていました。しかし今になって考えると一生けんめい勉強したのは先生のテストだけ、いい点をとって先生にアメをもらったこともありましたのに……、でも一生けんめい勉強したつもりでもうまく書けなくて再試を何回も受けました。勉強をすることは大へんいいことで自分のためによかったと思います。どうぞこれからも先生のきびしい方針で後はい達をなやまして下さい。きっと後になってよかったと思う日のくることを私は信じています。最後のお願い……どうか60点ありますように。』

再試、再履習そして無事卒業した卒業生からの春の便り。

『愛する京都の老友池宮先生、九州には京都より一足早い春がやってき

ました。卒業してはや1年，再試，再履習とひと1倍かわいがっていただいたおかげで無事卒業できたことを大変なつかしく思い出しています。…(略)……先生長崎にいらしたらぜひお立寄り下さい。

長崎の若い友より。』

私の教えた全科目5科目の再試をうけた学生もいた。彼女は私の試験は必ず落ちると信じこんでいた。高知に帰ったが，季節の便りをよこしてくれる。再試，再履習，留年になった学生も卒業後よく私を訪ねてくれる。誰も私をうらんだりしていないようだ。私の教育方針はまだ通用すると信じている。